

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500548
法人名	有限会社 ウェルハート
事業所名	グループホーム 幸生園
所在地	福岡県宮若市龍徳1488番地 電話 0949-34-7575

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年1月20日

【情報提供項目より】(平成 21 年 12 月 26 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	13,000円(水道光熱費) 4,000円(リネン費)	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円

(4) 利用者の概要(12月26日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6	要介護2	5		
要介護3	1	要介護4	6		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮田病院 鞍手町立病院 安倍病院 アイ歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホーム幸生園は周囲に畑、民家がある自然豊かな山あいの広い敷地内に大浴場の両脇に設置された2ユニットのホームである。当初開所に反対があったが、地区自治会に加入し、地域の社会資源としてホームの機能を還元したいと申し出たり、ホーム主催の納涼祭を地域に案内したり、ホームでついた餅を近隣に配ったり、日頃から率先して挨拶するなどの地道な努力で、昨今地元からの入居者もあり、近隣から野菜の差し入れがあるなど、地域の理解や協力が促進しつつある。重度の入居者もいるが、管理者等全職員がホームの理念である「明るくやさしく元気よく」その人らしい生活を支援しようと、かかりつけ医と地域の協力医療機関受診で健康を管理しながら、日々のケアを実施している。成年後見制度を活用している入居者を支援したり、制度の活用が望まれる入居者は地域包括支援センターと連携しながら支援している。加入している福岡県高齢者グループホーム協議会の研修会等の参加ばかりでなく、地域同業者で発足している協議会で事例を検討し合う等、地域密着型サービスの周知や向上を目指しているが、なにより入居者や家族の意向を十分に組み入れたケアの実践が期待できる。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果に沿って、理念に地域との交流を盛り込んだり、成年後見制度等のパンフレットを玄関に整備している。アセスメントした入居者の生活歴等の記録の整備、夜間を想定した避難訓練の実施、備蓄に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自で記入した自己評価を管理者、主任職員、介護計画作成担当者等でまとめている。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議実施要領を整備し、2ヶ月毎に地域区長、民生委員、市担当者、家族等の参加で開催している。会議では入居者の近況、職員勉強会の内容等、困難事例の問題、職員の研修や外部評価について報告している。食事摂取量については家族から量の制限をしないでほしいとの意見があった。会議録を整備し、玄関ホールで公表している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>毎月発行している近況を掲載したファミリー便りに、担当職員が入居者の状況や連絡事項を記載している。家族が来訪した折にも、入居者の心身の状況を説明している。日用品等を購入する預かり金は出納を明記し、家族や後見人に送付している。職員の異動は随時報告している。成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレット等を玄関に整備している。現在成年後見制度を活用している入居者もあり、後見人の弁護士と話し合うこともある。また、成年後見制度の活用が必要な入居者もあり、地域包括支援センターと共に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区自治会に加入し、日頃から地域の社会資源としてホームの機能を還元したいと申し出ている。納涼祭を地域に案内し、前回の納涼祭は入居者家族等の50名の参加があった。ホームでついた餅を近隣に配っている。地域から入居され、地域の訪問者が増えている。また定期的に陶芸や生花などの地域のボランティアが来所している。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るくやさしく元気よく」その人らしい地域とふれあいをたいせつにしながらかせなライフをサポートするとのホーム理念を入居者、家族、職員、来訪者等が見やすい玄関、共有空間、事務所に大きく掲示している。	○	重要事項説明書、契約書、運営規程に地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」を明記することで、ホーム理念を具現化やさらなる地域と交流の促進を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域のふれあい等を理念に盛り込み、ミーティング等で取り組みを確認している。入居者らしい生活を介護計画に沿って日々の生活を支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、日頃から地域の社会資源としてホームの機能を還元したいと申し出ている。納涼祭を地域に案内し、前回の納涼祭は入居者家族等の50名の参加があった。ホームでついた餅を近隣に配っている。地域から入居され、地域の訪問者が増えている。また定期的に陶芸や生花などの地域のボランティアが来所している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価結果に沿って、理念に地域との交流等を盛り込んだり、成年後見制度等のパンフレットを玄関に整備している。アセスメントした入居者の生活歴等の記録の整備、夜間を想定した避難訓練の実施、備蓄に取り組んでいる。職員各自で記入した自己評価を管理者、主任職員、介護計画作成担当者等でまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、2ヶ月毎に地域区長、民生委員、市担当者、家族等の参加で開催している。会議では入居者の近況、職員勉強会の内容等、困難事例の問題、職員の研修や外部評価について報告している。食事摂取量については家族から量の制限をしないでほしいとの意見があった。会議録を整備し、玄関ホールで公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが中心になって徘徊ネットワークを立ち上げ、ホームで入居者情報ファイルを作成して。困難事例のケアの方向性や成年後見制度の活用について、地域包括支援センターと連携したり、宮若市の福祉祭りで協働するなど、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレット等を玄関に整備している。現在成年後見制度を活用している入居者もあり、後見人の弁護士と話し合うこともある。また、成年後見制度の活用が必要な入居者もあり、地域包括支援センターと共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している近況を掲載したファミリー便りに、担当職員が入居者の状況や連絡事項を記載している。家族が来訪した折にも、入居者の心身の状況を説明している。日用品等を購入する預かり金は出納を明記し、家族や後見人に送付している。職員の異動は随時報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの意見苦情窓口を明記している。玄関に意見箱の設置や介護サービスの意見や苦情の問い合わせ窓口のポスターを掲示している。日頃から運営に関する意見等をお願いしたり、試食会を開催し、参加した家族にアンケートをお願いし、運営に反映している。家族会はないが、納涼祭に参加する家族も多く、発足を予定している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を担当制にすることで、入居者と馴染みの関係づくりをしている。ユニット間の異動もあるが、主任職員が中心になってフォローしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は資格でなく意欲のある人を採用し、試用期間も設けている。雇用契約書や服務規程を整備し、定期健康診断や年次有給休暇の取得を支援している。各ユニット毎に休憩室が確保され、交替で休憩している。食事会などで、職員間の交流やストレス解消に努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	定期的な勉強会を開催し、入居者の理解に努め人権について学習している。身体拘束虐待防止に関するマニュアルを整備し、研修会に参加している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画は作成していないが、2ヶ月毎に当番の職員がテーマを決め資料を準備し、内部勉強会を実施している。高齢者の理解、うつ病、口腔ケア、成年後見制度等について学習している。勉強会実施記録や研修会参加記録を整備し、伝達に役立っている。職員の悩みや相談は管理者が応じている。	○	職員の段階に応じた研修を受講できるように、年間の研修計画の作成をお願いします。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協会に加入し、Fブロックの研修会に参加したり、地域同業者で発足したGHみやわかで、事例を検討し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりの支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や病院からの入居があるが、ホームの見学をお願いしたり、再三自宅訪問や病院へ面会をすることで、本人と馴染みになり納得して入居していただくように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや収穫など入居者と一緒に取り組んだり、生活歴から入居者の出来ることや出番をみつけて、担当職員が寄り添いながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントした入居者の意向、生活歴や職歴を整備し、日々のケアに役立てている。入居者の生活のリズムを把握し、入居者に常にどのような生活をしたいかを訊ねている。	○	週間スケジュール表を活用しているので、入居者の生活歴・職歴からアセスメントした日々の暮らしの意向や役割、楽しみ事を落とし込むことで、より具体的なケアの実践を期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントから課題を抽出し、担当職員を交えた担当者会議で入居者や意向を重視した介護計画を作成しているが、入居者や家族の意向を話し合った記録がない。介護計画書に入居者や家族の意向を明記し、作成した介護計画を説明し、同意を得ている。	○	入居者や家族の意向、かかりつけ医や担当職員の意見を検討しているので、会議録に明記することでさらなる介護計画の共有を期待します。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし、計画を見直している。体調の変化がある場合はその都度計画を見直している。見直した介護計画は入居者や家族に説明して同意を得ている。腰痛でコルセットを使用している入居者もあり、適切なモニタリングが実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じた医療機関受診に同行している。帰宅願望の入居者に同行し、一緒に自宅の掃除等をしたりしている。居室に位牌を持ち込んでいる入居者もいるため、近隣の寺院にホームでのお参りをお願いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から毎週訪問診療を受け、健康を管理している。専門医受診が必要な場合は、かかりつけ医の紹介状を持参している。医療受診状況は業務日誌に記載し、全職員に周知したり、随時家族に連絡している。入居者に変化のある場合は常勤の看護職員にオンコールしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルに関する指針や入居者や家族の同意書を整備し、入居時に説明している。現在まで、終末期を迎えた入居者はいないが、状況に応じて随時同意書を取り交わし、指針に沿ったケアを実施する予定である。	○	入居者や家族の意向があれば、ホームで看取りたいとの意向があるので、看護職員が中心になってターミナルケアの研修もお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に秘密保持や個人情報の取り扱い、利用目的を明記しているが、個人情報に関する規程を掲示していない。職員が在職中のみならず退職後も秘密保持を遵守するように措置を講じている。職員は入居者に穏やかに対応している。	○	個人情報に関する規程の整備や事業所内の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等のおおまかな1日の流れはあるが、入居者の状況や意向に沿った支援をしている。移動可能な入居者には昼食のお知らせをしているが、ゆったりとした声かけであった。担当制であるため、入居者の十分な状況把握がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の相性等を配慮し食卓を分けている。食が進まない入居者には、職員は味付けやメニューを話題に声掛けしながら介助している。また、入居者の力量に応じて、食器洗いや、配膳などを職員と一緒にしている。入居者の要望でジョイフル等で外食を楽しんでいる。次回は入居者から要望のあったラーメンを食べに出かける予定である。職員1名が伴食している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じて、週2～3回の入浴を支援しているが、自力で入浴できる入居者は希望があればいつでも入浴できる。中には、医療機関での機能訓練前に入浴する入居者もいる。入浴を拒否される入居者もあり、声かけのタイミングの工夫などで入浴を支援している。ドライブを兼ねて、温泉センターに出かけることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアに囲碁や将棋の対局をお願いしたり、コスプレショーを楽しんだりしている。元宿屋の女将には、着物の着付けをお願いしたり、カラオケやビデオ、食器洗い、洗濯物たたみ、畑の手伝いなどで役割や楽しみ事を支援している。また、図書館に同行することもある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとにお花見や祭りに外出したり、お弁当持参で温泉センターに出かけたり、大門松を見学したりしている。日頃はホーム周囲を散歩したり、広い裏庭で野菜づくりや運動会をすることで、戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間は施錠しているが、日中は施錠していない。ホーム中央に玄関があり、職員は入居者の動向に気配りをしている。以前無断外出をした入居者もあるが、近隣の協力等で事無きを得ている。徘徊ネットワークを活用できるように、入居者情報ファイルを作成している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	昨年の暮に消防署の協力で、近隣へ協力をお願いして避難訓練を実施している。また、夜間想定した避難訓練では想定外の課題も明白になり、事務所の電話の前に電話番号や連絡網を掲示している。各ユニット毎に消火器を設置し、カップラーメン、飲料水、飴、ビスケット等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の血糖値が高くなり、かかりつけ医に相談し、管理栄養士から炭水化物等の摂取について指導を受けている。1日おおよそ1,200～1,500Kcalで栄養のバランスを考慮した食事を提供し、摂取量を記録している。また、既往症のある入居者にはかかりつけ医の指示の水分量の摂取を支援している。1ヶ月ごとに体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緩やかなスロープのある玄関ホールは、落ち着いた色調で下駄箱の上には入居者の陶芸作品等が飾られ、腰掛けて履物が着脱できるように台が置かれている。ホーム全体が段差のないバリアフリー構造で、広い廊下には手摺が設置されている。共用空間のリビング兼食堂はオープンキッチンで、明るい日差しの中、食卓を囲んで安定感のある椅子やソファが設置され、入居者は好みの場所で寛いでいる。適切な空調でリビング、廊下、トイレは温度差が少なく、快適に過ごすことができる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は車椅子や歩行器でも移動が容易な引き戸で、ドア等に名札や担当者名前の記載がある表札が掲示されている。大きなクローゼットが備え付けられ、入居者の心身の状況に応じて特殊寝台をレンタルしたり、エアマットや電動ベット等の活用、ベットの配置を工夫したり、畳み敷きに直接マットレスを使用している。馴染みの家具やタンスの上には家族の写真や位牌があり、ミニ冷蔵庫やポットが置かれ、同じ広さと思えないほど、個性あふれる飾りや使い方で、居心地よく過ごせる工夫がある。		